

生命環境学部環境デザイン学科

環境デザイン学科は、豊かな生活環境の実現を目的として、住居・建築学、生活デザイン・ランドスケープデザインについて教育研究を行うことにより、広い教養と総合的な判断力を持ち、人と環境に優しい生活環境と生活様式の創造ができる人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

生命環境学部のディプロマ・ポリシーに基づき、環境デザイン学科では、住居・建築学を基盤として、生活環境や生活空間に関わる専門性の高い「生活者の視点」をもった専門的職業人として社会に貢献できる、以下の知識と能力をもった学生に学士（環境デザイン学）の学位を授与します。

1. 幅広い教養に支えられた人間生活と社会、文化、環境に関する総合的理解と、バランスのとれた判断力や自発的に考え主体的に行動できる汎用的能力を身につけている。
2. 住宅・環境・建築分野の専門技術者に必要な倫理観と自然科学、情報技術の知識をもつとともに、グローバル社会に対応できる語学力を身につけている。
3. 人間生活と人間を取り巻く環境に関する専門的知識と深い理解力を身につけている。
4. 住宅、建築、ランドスケープ、インテリア・プロダクトデザインに関する専門的知識と技術、またそれらを活用できる応用能力を身につけている。
5. 建築空間や生活用品を設計・制作するための創造力と表現力を身につけている。
6. 建築空間や生活環境における課題を発見し、与えられた条件のもとで企画・立案・実行するための能力を身につけている。
7. 論理的プレゼンテーション能力や他者と協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

生命環境学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、環境デザイン学科では教育課程において以下のようなカリキュラム・ポリシーを定めています。

少人数制による丁寧な教育により、専門知識、創造力、俯瞰力、判断力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を鍛えるとともに、自然科学および人文・社会科学の両方に優れ、脱温暖化、安心・安全、環境共生などを目指して建築・都市・地域および生活環境・様式の創造に資する人材を養成しています。

履修すべき科目として

1. 環境デザインに関する広い視野を養うとともに、高度な専門性と深い学識を身につけるための講義や実験・実習。
2. 実践的な企画・計画・設計・デザインおよび解析に関する技能と技術を磨くための建築・住宅・生活用品に関する設計・制作演習。
3. 論理的思考力、課題探求能力、問題解決力を培い、解決策や提案を論理的に伝えるための卒業論文。
4. 地域や社会的諸条件から計画のアイデアとコンセプトを構築し、より良い生活環境としてまとめあげ設計できる専門的能力を培うための卒業制作。

そのために、住居・建築学を基盤としつつ循環型社会、ランドスケープ、インテリア・プロダクトなどを包摂した専門領域の下で、以下の2つのコース（「住居・建築コース」と「インテリア・

生活デザインコース」)を用意しています。2年次後期からは、いずれかのコースに従って単位を取得します。

「住居・建築コース」は、生活環境や生活空間に関わる幅広い教育研究領域を基にしたカリキュラム構成により、建築業界でより専門的な職務に就くための能力を育成します。

「インテリア・生活デザインコース」は、人間環境を取り巻く福祉・造園緑化・生活用品などの多様な社会ニーズへ対応できる人材を養成します。

環境デザイン学科では、建築士養成をベースとしつつ、両コースの専門授業科目群を有機的に統合することで、インテリアから住宅・建築・都市・地域に至る幅広い生活環境を改善し創造しうる能力を修得します。

ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能、実践能力、コミュニケーション力を修得するため、

1. 1年・2年次では、全学共通の教養教育科目である教養基礎科目、キャリア育成科目、教養総合科目、教養展開科目、および生命環境学部の学部共通専門科目を幅広く履修することにより、深くバランスのとれた教養と基礎的な知識・ジェネリックスキルを修得する。
2. 2年次では、学科共通専門科目の履修により論理的思考力や数理解析力、専門分野における基礎的及び専門的知識・技能を修得する。後期からは、上記2コースの設定により、各専門分野に対応した授業科目群（設計・計画系，環境・設備系，構造・材料設備系，生活デザイン系，地域計画・ランドスケープ系専門科目）を系統的に履修し、インテリア・住宅・建築・都市・地域に至る幅広いテーマについて、その専門基礎的知識と分析・理解力、デザイン・設計力を修得する。
3. 3年次には、環境デザイン実習をはじめとする各種専門科目実験・実習等のより実践的で提案型・体験型の学びを重視した専門科目群の履修を通して、インテリア・住宅・建築・都市・地域に関わる専門家・技術者として行動する実践能力を修得する。
4. 4年次では研究室への配属により、対面指導による卒業研究を通じて、高度な専門能力と深い学識を修得するとともに、自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力を修得する。
5. 4年間の学修成果は、卒業研究（必修）によって評価する。可否の評価は、発表用梗概、発表会の内容を含め学科専任教員の合議により行う。卒業研究の履修要件は、3年次終了時点において『学生便覧』の履修規程において必要単位数などの諸条件が規定されている。

入学

コース
選択

ゼミ
配属

卒業

ディプロマ ポリシー 1-7 との関係	学年		1回生	2回生	3回生	4回生		
	各学年の獲得目標		バランスのとれた教養と基礎的知識・ジェネリックスキルの修得	インテリア・住宅・建築・都市・地域に至る専門基礎的な知識と技能の修得	提案型・体験型の学びを重視した専門科目群による専門技術者に必須の実践的能力の修得	対面指導による卒業研究・制作を通じ、高度な専門性と深い学識、問題解決能力とコミュニケーション能力の修得		
1・2・7	教養教育	汎用的能力の獲得	教養基礎科目, 教養総合科目, キャリア育成科目	教養展開科目, 応用数学, 物理学実験ほか		専攻科目演習ほか		
	学部基礎, 学部共通	生命環境学の基礎理解力の獲得	生命環境科学概論, 情報処理概論ほか	環境政策論				
	学科共通	論理的思考力・文章力の獲得	論文講読法 I		論文講読法 II ほか			
		数理解析力の獲得	基礎数学, 基礎物理学ほか	解析学ほか				
	実践的デザイン・設計力の獲得	環境デザイン実習 I, II ほか	環境デザイン実習 III, IV A, IV B ほか	環境デザイン実習 V A, V B, VI, 建築CAD演習ほか				
3・4・5・6	設計・計画系	住宅・建築計画・設計力の獲得 史的分析・理解力の獲得		住宅設計学, 建築計画学, 住空間計画学ほか 西洋建築史, 住居・日本建築史	建築・インテリアデザイン論 住環境防災計画学ほか 都市史, 近代建築史	卒業研究	一級建築士・二級建築士の受験資格取得 インテリアプランナーの登録資格獲得	
	環境・設備系	建築環境学的分析・理解力の獲得 建築設備学的分析・理解力の獲得		建築環境工学 I・II, 人間工学 建築設備学 I	住環境工学実習, 住環境学実験 建築設備学 II, 生活環境計画論			
	構造・材料系	建築構造学的分析・理解力の獲得 建築材料・生産工学的分析・理解力の獲得	建築基礎解析学, 一般構造学	構造力学 I・II 建築材料学	建築構造論 I・II, 建築構造実験及び同実験法(材料力学を含む) 建築施工法			建築生産
	インテリア・生活デザイン系	インテリア・プロダクトデザイン力の獲得 住生活学・生活文化学的分析・理解力の獲得		色彩学, インテリア・プロダクトデザイン論 I 住生活学	インテリア計画学, インテリア・プロダクトデザイン論 II, デザイン史 生活文化論			
	地域計画・ランドスケープ系	地域・環境計画学的分析・理解力の獲得 ランドスケープ学的分析・理解力の獲得		地域・都市計画学 ランドスケープデザイン論	環境配慮型生活論, 住環境管理学, 都市政策論 緑環境システム学			
学芸員資格	学芸員資格取得対象科目		博物館概論・博物館経営論ほか	博物館資料保存論・博物館教育論ほか	博物館実習ほか		学芸員資格取得	